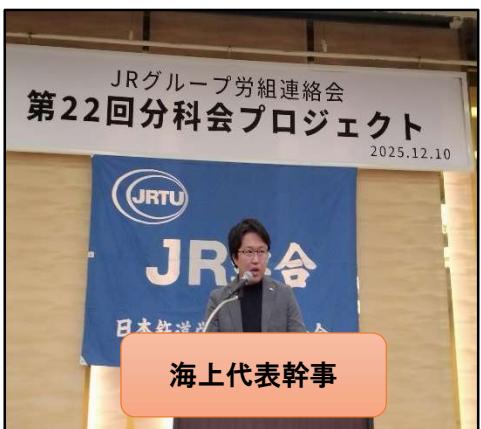


JR連合 JR グループ労組連絡会 第22回分科会プロジェクトを開催



12月10日、大阪市内において、JRグループ労組連絡会第22回分科会プロジェクトが開催され、貨物連合より、辻村会長(貨物鉄産労)・山田事務局長(南関東ロジ労組)が出席しました。

会を代表して挨拶に立った、JRグループ労組連絡会海上代表幹事は、「2025春闘では賃金アップ出来



た労組が多くあったが、物価上昇には全く追いついておらず、2026春闘は、今後を担う大きな分水嶺であり、グループ労組全体で積極的に取り組んでいきたい」と述べられ、JR連合を代表して挨拶に立った上村会

長は、「JR産業で死亡労災が多く発生していることに危惧している。改めて安全最優先の作業をお願いしたい。



2025春闘では、JRの各単組では大幅なベースアップがあり、グループ労組との格差が拡がった。JR各社・グループ会社では要員不足が大きな問題となっており、人材確保・定着を最大の課題と位置付け 2026春闘を積極的に取り組んで頂きたい」と述べされました。

続いて、JR連合住吉局長より、「2026春闘を取り巻く情勢とJR連合の春闘方針(素案)について、基調提起を行い、JR連合の方向性を共有しました。



分科会では、工務・運輸・陸運・物販・ホテル・一般・情報と別れ、貨物連合は陸運分科会に入り、辻村会長が座長となり、2026春闘を重点的に意見交換会し、各分科会からの報告では、山田事務局長が陸運を代表して報告を行い、最後にJR連合住吉局長が総括を行い閉会しました。

2026春闘方針は、1月28日に開催されるJR連合中央委員会で決定します。